

幼児と児童のオンライン交流

上小川小学校と頃藤保育所の実践（大子町）

第1学年生活科では、幼稚園や保育所の幼児を招待し、一緒に遊ぶという学習内容がある。そこで、本校では、近隣の保育所との交流会を行ってきた。実際に保育所に出向き、歌やダンスを披露し合い、小学生による読み聞かせを行った。さらに、班に分かれて保育所の幼児との遊びを通して交流を深めてきた。しかし、コロナ禍になってからは、実際に出向くことが難しく、オンラインでの交流に切り替えている。

参加者 大子町立上小川小学校1年生 8名、大子町立頃藤保育所 9名

準備 オンラインに必要な機材類、発表で使うもの（楽器類、ダンス用CD）

■ オンライン交流の実践

- ねらい
 - ・ 幼児期に育まれた資質や能力の小学校生活への円滑な接続をめざす。
 - ・ 児童の主体性・表現力の育成、児童・幼児の発達段階に応じたコミュニケーション能力向上の機会とする。
 - ・ 小学校教員の保育理解並びに小学校・保育所相互の情報共有の機会とする。
- 場所 大子町立上小川小学校、大子町立頃藤保育所
- 生活科2時間扱い
- 活動内容
 - ・ 1年生からの発表
 - ・ 保育園児からの発表



■ 実践をもとにした検討

- **幼児教育施設保育者の意見から**
 - ・ 3月まで一緒に過ごしていた一年生の姿を見て喜んでいました。
 - ・ お礼に遊戯を発表し、見てもらうことの嬉しさを感じながら、堂々と踊ることができた。
 - ・ 就学児は、小学校に入学する不安が減り、楽しみにしていた。
- **小学校教員の意見から**
 - ・ 自分の弟や妹、よく知っている幼児の前だったが、恥ずかしがらずに堂々と発表することができた。自分たちが成長した姿を見てほしいという思いがあった。
 - ・ 保育所の頃に小学生と交流したことを覚えている児童がおり、自分の成長が実感できたようだった。
 - ・ オンラインでの交流会だったため、発表の仕方（声の大きさや動き）の面で工夫することができた。

- ・ 保育所から小学校へ円滑なアプローチカリキュラム・スタートカリキュラムをつくっていく。
- ・ 上小川小学校区の保小連携の「ねらい」「活動内容」を明確にしていく。

ICT を活用した保幼小交流

小学校（保育所・幼稚園・認定こども園）の実践

コロナ禍においても、保幼小の交流を継続していけるように、ICT を活用した保幼小の交流を実践した。第1学年の生活科の中で、来年度の新入生のために学校紹介の動画（Google スライドを録画）を作成し、それを基に感想をオンラインで伝え合うという取り組み。

参加者 私立幼：40名、私立こ：6名、私立保：30名、小学校：80名

準備 事前の準備として、幼児教育施設に動画を視聴するための PC やプロジェクターなどの環境が整っているかを確認し、不足している機器は、学校から持参して補った。実践した小学校では、毎年 30 箇所近くの幼児教育施設から新入生を迎えているため、卒園生の多い幼児教育施設 3 園を対象として実施を行った。

■保幼小交流① 「知ってほしいな！〇〇小学校」

来年度入学する年長児に、小学校の楽しさを知ってもらうため、生活科の学習の中で、グループごとに3分間の動画を作成した。内容は児童が主体的に話し合い、「1年生の教室」「図書室や音楽室」「学習の様子」「登校と下校」「給食の様子」「遠足」の6つとした。スライド作りでは、GIGA スクール端末を使用して児童が写真を取り、スライドに貼り付けた。（1年生では、文字入力が難しいため、まとめる作業は教師が補助。）スライドの紹介文は児童が考えて、一人ずつ読みながら録画をした。作成した動画を、近隣の私立幼稚園と認定こども園で視聴してもらい、後日 Zoom で交流会を開いて感想を伝え合ったり、園児の質問に答えたりした。

活動を通して、動画を作成することで、児童自身が学校生活をじっくりと振り返り、入学してからできるようになったことを実感することができた。交流会では、司会役や質問受付係などの役割を担うことで、児童の主体性を高めることができた。



児童と作成したスライドより

■交流後の振り返り

○幼児教育施設保育者の意見から

- ・「学校の様子がよく分かって、入学するのが楽しみになった。」と、年長児が安心感をもったことがよかった。
- ・Zoom は研修等で使用する機会が多く、交流が容易にできた。
- ・ICT 機器が揃わなくても、掲示物（学校すごろく）や手紙の交換で交流させてもらえて、園児がとても喜んでいた。

○小学校教員の意見から

- ・園児と交流し、上級生としての意識を高めることができた。
- ・オンラインで実施したことで、子どもたちが園や学校を行き来する負担がなく、安全に交流することができた。
- ・交流会をきっかけに、幼児教育施設と連絡を取り合う機会ができ、卒園生の情報交換などもできた。日常的に連絡を取り合えるような関係作りが大切だと感じた。



今回の実践を基に、普段の授業の様子をオンラインで参観し合うような、日常的な取り組みにつなげていくことで、相互の教育についてより理解を深めることができると考える。また、コロナ禍に関係なく、生活の状況に応じて、長期的・継続的に実践していきたい。

オンライン学校見学

～1年生が小学校のことを教えてくれました～

- ・新型コロナウイルス感染症対策を考慮し、オンラインを活用し学校見学を行う。
- ・幼稚園の年長児と1年生を Zoom でつなぎ、学校の生活の流れや、施設の紹介を1年生の担任+1年生の児童たちが行う。

参加者 公立幼…年長児：年長児担任
小学校…1年生：1学年担任

準備 ・スクリーン ・プロジェクター ・PC ・HDMI ケーブル
※スピーカーがあった方が良い



1年生担任が進行を務め、1年生が分担し園児に向けて、ランドセルのしまい方や、傘のしまい方、筆箱の中身などについて、実物や活動の様子を見せながら説明する。



1年生担任がタブレットをうまく活用し、園児が実際に見ているような視点で配信を行う。



遊戯室にスクリーンを設置し、年長児全員でオンライン交流が図れるようにする。



教室の中だけではなく、靴箱や廊下、トイレ等についての説明をしたり、園児からの質問タイムなども設けたりと、就学後の緊張不安の解消につながるような交流を行う。



プロジェクターにプラススピーカーもあると、音声がより聞き取りやすい。

質問タイムの際には PC の前に園児が移動して質問する。

○教育委員会 指導室の意見から

- ・1年生が頑張って説明をする様子が伺え、幼・小どちらにも良い経験ができたのではないかと。
- ・幼・小どちらも担任が上手に子どもたちのフォローをしており、こまやかな配慮や、子どもたちの接続を推進していきたいという意図が感じられた。

幼小オンライン懇談会

～幼児・児童についての情報交換会～

- ・ 1学期に幼稚園教諭が小学校授業参観を行う。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策のため、幼児・児童についての情報交換を行うことができなかった。
- ・ 感染状況を踏まえ、オンラインを活用し懇談会を行う。

参加者 幼稚園…幼稚園長：年長担任：前年度年長担任
小学校…生徒指導主事：1学年担任(3名)：特別支援教育コーディネーター

準備 ・PC ・Zoom アカウント



1年生全体の様子や、就学した児童についての個々の配慮点(友達関係・保護者について・アレルギーの対応他)等の情報交換を行う。アレルギー対応については、食事面の配慮だけではなく清掃時の配慮についても情報共有をすることができた。



特別支援教育コーディネーターの小学校教諭も参加し、次年度に入級が予想される幼児についても情報共有を図る。各々の特性や、配慮すべき点などについて小学校側から幼稚園担任に質問し、事前の対応を検討する等のきっかけへとつながった。

オンライン懇談会を終えての感想

○幼稚園側の意見から

- ◎以前まで行っていた懇談(直接会って行う)と変わりなく情報交換ができた。
職員同士の話し合いならば移動時間をかけずに行えるので Zoom を活用していきたい。
- ◎今後は子ども同士のオンライン交流を実施していきたい(学校探検や授業体験等)
- ▲園内に Zoom 接続環境が整っていないため、庁舎まで PC を取りに行く手間がかかる。

○小学校教員の意見から

- ◎幼稚園側の意見と同様に、以前までの懇談会と変わりなく実施することができた。
スムーズに行うことができ、予定通り時間内に終えることもできた。
- ◎日程調整がやすく手軽に懇談の時間が設けられる。
- ▲今回はスムーズに話し合うことができたが、初対面でいきなりオンライン懇談会だと話が弾まない可能性も考えられる。

つなぎっぱなしオンライン交流

～負担感のないオンライン交流の実践～

- ・小学校・こども園共に負担感のない交流を模索してみようと考え、試行的に実施する。
- ・小学校1年生の様子（朝の会～1・2時間目～中休み）を常時 Zoom 配信する。
- ・こども園では、子どもたちが好きなタイミングで小学校の様子を見ることができる。

参加者 公立こ：主に年長児 20 名、小学校：1 年生 13 名

準備 ・TV ・PC ・HDMI ケーブル ・スピーカー

■「オンライン交流コーナーの設置」



子どもたちがあやまって手を触れないように TV の後ろに台を置き PC をセットする。

大勢で同時に参加できるように、家庭用の TV をモニターにする。

外付けのスピーカーは必須。
オンラインで交流を図る場合には、できれば集音マイクもあると良い。



好きなタイミングで見られるように、通路部分にオンライン交流の場を設定した。
途中、年長児だけではなく、他の年齢の子も興味深そうに画面を見る様子が見られた。



休み時間の交流では、学校でどんな勉強をしているのか、給食のメニューは何か、トイレはどうなっているのかななどの質問をし、1年生や担任の先生から教えてもらった。

○こども園 子どもたちの感想から

- ・小学生に質問するのが楽しかった。早く小学校に行きたくなった。
- ・トイレの様子や給食の白衣を見ることができて良かった。

○こども園 保育者の意見から

- ・負担なく取り組むことが出来た。設備充実が必要。(スピーカー・PC は役場の物を使用)

○小学校教員の意見から

- ・こども園内に、常時オンライン交流環境があれば交流の幅が広がるように感じる。
- ・教師が質問に答える場面が多かったが、小学生が主体的に答えられるようにしていきたい。